

第38回品質保証検討会 議事録

1.日時：平成26年3月11日（火）13時30分～16時55分

2.場所：（一社）日本電気協会 4階D会議室

3.出席者

出席委員：鈴木主査(中部電力)，植木（原子燃料工業），大谷（三菱電機），徳久（三菱重工），岡部（IHI），近藤（リサイクル燃料貯蔵），齋藤（西日本技術開発），及川（東京電力），佐藤（日本原子力発電），島津（北海道電力），辰巳（北陸電力），筒井（九州電力），手束（四国電力），後藤（東北電力），中村（日本原燃），長谷川（電源開発），原田（中国電力），渡邊（JANSI），村上（JANSI），谷（東芝），芝原(日立GE)，新田(富士電機)

(計21名)

代理委員：岩田(JAEA 山内代理)，小又（三菱原子燃料 新井代理） (計2名)

欠席委員：秋吉副主査（関西電力），深堀（GNF-J） (計0名)

常時参加者：大田（東京電力），松山（三菱重工），渡邊（原子力規制庁），早川（原子力規制庁） (計4名)

オブザーバ： (計0名)

事務局：富澤，志田（日本電気協会） (計2名)

4. 配付資料

資料 38-1-1 品質保証検討会 委員名簿

資料 38-1-2 第37回品質保証検討会 議事録案

資料 38-2 JEAG4121 改定検討WG 検討状況

資料 38-3-1 JEAG4121 改定案（第2部7章チーム，第3部7章チーム）

資料 38-3-2 JEAG4121 改定案（第3部8章チーム，第2部8章チーム）

資料 38-3-3 （欠番）

資料 38-3-4 JEAC4111-2013の9章の推奨事項と解説に対するJEAG4121の第3部の案

資料 38-3-5 JEAG4121 改定案（第2部4～6章チーム，第3部4～6章チーム）

資料 38-4-1 ISO TC85 WG4「PWI 19443 "NUCLEAR SAFETY AND QUALITY MANAGEMENT SYSTEM - REQUIREMENTS"」について

資料 38-4-2 NUCLEAR SAFETY AND QUALITY MANAGEMENT SYSTEM - REQUIREMENTS

資料 38-5-1 平成25年度 JEAC4111 講習会の実施結果について（報告）（案）

資料 38-5-2 平成26年度 JEAC 4111 講習会等 スケジュール（案）

資料 38-6 平成26年度品質保証検討会体制案

資料 38-7 第二部目次案（課題の整理に代えて）

資料 38-8 原子力規格委員会 品質保証分科会 平成26年度活動計画（案）

参考資料 38-1 分科会委員構成の中立性，透明性について

参考資料 38-2 原子力安全の向上に向けた学協会活動の強化

参考資料 38-3 日本電気協会 原子力規格委員会 活動の基本方針

5. 議事

(1)配付資料確認，定足数確認

鈴木主査による代理委員2名の承認の後，事務局より，代理委員を含め委員27名中22名出席であり，議案決議に必要な定足数（委員の3分の2以上＝18名以上が出席）を満たしていることが報告された。（最終的には23名）

- (2)委員交代確認，常時参加者・オブザーバ承認
事務局より，資料 38-1-1 に基づき，交代委員等について説明があった。
JNES が規制庁に吸収統合されたことから渡邊委員が常時参加者になった。
- (3)前回議事録の確認
事務局より，資料 38-1-2 に基づき，前回議事録(案)について主査より説明があり，正式議事録とすることについて，委員の確認を得た。
- (4)品質保証分科会委員構成の見直しに関する事項対応について
委員より，参考資料38-1に基づき，分科会委員構成の中立性，透明性についての説明があった。分科会委員構成の中立性，透明性の観点から同一業種が委員総数の1/3以下になるように見直すことにした。現在，電力事業関係の委員構成が37%以上(H25. 12. 17現在)になっていたことから，3人以上委員を増やす必要があり，現在，学識経験者1名，その他の業種3名，「建設業」から2名の新委員が確定し，「建設業」の残り1名については調整中であるとの報告があった。
- (5)原子力安全の向上に向けた学協会活動の強化について
主査より，参考資料38-2に基づき，原子力安全の向上に向けた学協会活動の強化の取り組みについての，三学協会のステイトメントの紹介があった。
- (6) JEAC4121-201X「原子力安全のためのマネジメントシステム規程 (JEAC4111-2013)の適用指針」の改定案の策定状況について
主査及び各チームリーダーより，資料 38-2，資料 38-3-1,2,4,5 に基づき改定内容の説明があった。
主な質疑・応答は以下のとおり。
【4-6章チーム】
- ・4-6章に限らないことだが，JEAとしてJEAC4111-2013はGSR Part2として成立した際の扱い(改正・JEAGに反映等)と，細部の内容が変化しているDS456に対する取組みかたをどうするのか。
現在のIAEAの動きは6月のCSS会合に向け，DS456 Step9に対する加盟国コメント等のレビューを受けている状態。JEAGに反映するつもりならば6月の会合以降の情報を参照した方がよい。
- JEAC4111については，技術基準を受けて要求事項を定めているという面もある。よって，JEAG4121に反映するには，技術基準も変わっていないので早いと思う。
JEAG4121は解説にてDS456 Step9やそれ以降の版を適宜取り込んでいく予定であり，DS456の最終版に近いものをレビューする必要はあるだろうと考える。
DS456の最終版に至るまで，基本的な内容には差異は生じないと思うが，細部では既に技術基準と違いが生じている箇所もあり，その点についての対応は今後規制庁とのコミュニケーションをどの様に図っていくかが課題になる。
4-8章は技術基準に適合させる部分であり，DS456 Step7からの変更箇所全てを反映できるか今後検討するが，9章は技術基準に直接関係しないため必要な事項は適宜反映する。
DS456の最終版の対応については，全体チームと分科会の委員長を含めて幹事クラスで今後協議していく必要がある。
- ・DS456 Step7からStep9にて変更された箇所は，反映すべきと考える。その他，JEAGにIAEAの意図をきちんと反映して欲しい。例えば，プロセス責任者の解説で現在の記載では規程文書の制定や品質目標の設定などマネジメントシステムの縦の繋がりに重点が置かれており，プロセス間の横の繋がりが弱い印象を受ける。IAEAの意図はこれら全体を強化する責任者としてプロセス責任者を設けている。
その他，5. 3f)で「組織運営に関する方針と，整合が取れたものである。」と記され

ているが、DS456での統合MSの目的は、統合によってより効果的に原子力安全の達成を目指すことである。この価値観を達成するための手段である旨を表すことが重要。

【7章チーム】

・第3部の説明時に、吹き出しで第2部に対しての要求があり検討中になっている。それを移して建設として整合性をとったら、まず第2部としての建設は各章チームのレビューに出すので建設段階は完了することになるのか。

→大部分終りになる。

・偽造品、模造品の懸案事項でメンバー選定要となっているが？

→メンバーは、大谷委員、谷委員、芝原委員、松山委員に決まっている。

・規制庁についても、建設段階を経験している人に参加して欲しい。

→正式なWGであれば参加可能である。

・第2部に2.7、2.8節があり、建設段階は一応2.7節に置いているがどの様に訂正するか。2.8節についても設計開発が、現状のJEAC4111に記載されているのに、建設を含めてのフローが入っていない。

→第2部の2.7節の運転段階の業務の計画の後に建設段階を入れている。

【8章チーム】

・資料38-3-2、3/29頁の【例示】、①の情報の入手方法で、地元の消防、労基署等の立ち入り調査があるのでこれらについても追加しておいたほうが良い。また、「指摘、要領、指摘事項(安全協定、情報公開)」との記載があるが、立ち入り調査があると所見が出されるが、これらの対応はこの中に入ってくるのか。

→消防、労基署等の立ち入り検査で反映すべき事項があった場合にはマネジメントシステムにおいて考慮する。

→①に書かれている情報の入手は規制、地方自治体に偏っているので、これでよいのかという気もする。少し検討したい。

【9章チーム】

・期待事項については難しいが、WANOのPO&Cは業務毎の期待事項と横串を挿した場合のPO&Cとの2つに構成されていて、そのまま適用することは日本の組織に馴染まないで、ある程度カスタマイズする必要が出てくる。米国では明確になっているので期待事項としては言及しておく必要があると思っている。

→期待事項について最低限言及する必要があると思っている。マネジメントオブザベーションについては、米国流をそのまま持ってきて違うところがあるので難しい。ピアレビューへの対応状況を見ると、WANO、JANSIの位置づけに対する考え方は変わってきているのではないか。

・ピアレビューで質問されて答えられない状況がまずくて、それに対してこのようにしていると答えないとコメントをもらうことになる。答えられる状況を作りたい。

→我々はJEACの世界にいるが、もう少し答えられるように、ブリッジがかけられるようにしたい。

(7) 第二部目次案（課題の整理に代えて）

委員より資料38-7に基づきJEAC4111-201Xの目次案について説明があった。

主な質疑・応答は以下のとおり。

・6~7頁、○その他、「文書、記録管理」の文書化の意味は、4,6,7章のところと係わるので整理する必要がある。

→一度早めに、1頁の「QMSを導入以来10年が経過して、」のところで纏めてみる。

・ここで言っている「文書、記録管理」はいわゆる文書管理、記録管理と違うのか。

→文書管理、記録管理は、どうあるべきかということである。例えば、エビデンス管理だけが文書管理、記録管理ではない。

・今の断面は9章をどう取り組むかという、方向付けの段階であるので吉田先生の意見を聞くことが好ましいと思う。

- 賛成であるが、我々のスタンスの問題である。
- ・技術基準は公式にはGS-R-3までであり、これに加えてStep7を参照したと思われるが、Step9では社会科学、行動科学の知見活用の要求がなくなっている。
- 無くなってはいない。社会科学、行動科学という言葉はリソースのところに残っている。
- ・大きな項目として特出ししていた。
- 安全文化のところから消えたがリソースのところに残っている。
- ・今後、技術基準かGSR Part 2のどちらをみて規格を作成するか決めておいたほうがよい。
- 両方である。国の技術基準も最終的にIAEAに対しても同じように係わりを持たなければいけないと思う。我々の規格も技術基準も国際的な標準にあっていかなければならないと思う。

(8) 国際規格「ISO-TC85」に関連した品質保証分科会における対応状況について

委員より資料38-4-1に基づき国際規格「ISO-TC85」に関連した品質保証分科会における対応状況について説明があった。

[主な意見]

特になし

(9) 平成25年度JEAC4111講習会の実績及び平成26年度JEAC4111講習会の計画

委員より、資料38-5-1に基づき平成25年度JEAC4111講習会の実施結果についての報告があった。また、資料38-5-2に基づき平成26年度JEAC4111講習会のスケジュールについての説明があった。平成26年度JEAC4111講習会を2回開催することについて了解され、開催場所については、東京会場(JEA)で2回あるいは東京会場(JEA)で1回、大阪会場で1回にするかは検討することになった。

[主な意見]

特になし

(10) 原子力規格委員会 品質保証分科会 平成26年度活動計画(案)について

主査より、資料38-8に基づき品質保証分科会 平成26年度活動計画(案)についての報告があった。一部修正することで承認された。

【修正】

- ・(3)JEAC4111 講習会推進、「有楽町電気ビル……………会場として、JEAC4111 普及……」
→「JEAC4111 普及……」
- ・中間報告:分科会:「平成25年6月……」 → 「平成26年6月……」
- ・上程:分科会:「平成25年6月……」 → 「平成26年6月……」

6. その他

1) JEAC4111/JEAC4121 改訂検討WG

主査より、資料38-6に基づきJEAC4111/JEAC4121 改訂検討WGの体制について紹介があった。【8章サブチーム】に上田(MHI)，【オブザーバ】に渡邊(原子力規制庁)，早川(原子力規制庁)を追加する。

以上